

ふれあい

No. 4

編集発行
上越市立春日小学校

校長 田邊 道行

6月の全校集会で、次のような話をしました。

皆さんは、どんなときに幸せを感じますか。プレゼントをもらったとき、褒めてもらったとき、おうちの人と笑っているとき、おいしいものを食べているとき、できなかったことができるようになったとき、…たくさんありそうですね。ただ、こういう幸せというのは、時間が経つとすぐに薄れてしまいます。そのような中、私はある言葉によって、幸せをずっと長く感じています。

その言葉を調べてみたら、日本では51とおりの言い方がありました。少し紹介しますと…
沖縄県：にへーでーびる、青森県：めやぐだ、熊本県：ちょうじょう、山形県：おしょうしな、福島県：してもらって、秋田県：おぎに、京都府：おおきに…などです。

分かりましたか。答えは「ありがとう」です。

さて、「ありがとう」の反対の言葉は何でしょう。(反対の意味の言葉クイズを少ししてから聞きました。) まず、「ありがとう」を昔の言葉にしてみましょう。「ありがたし」です。漢字で書くと、「有難し」となります。「難」という漢字は、「難しい」という意味があります。ですから、「有ることが難しい」が「ありがとう」の元々の意味です。

そうすると、ありがとうの反対は、「有ることが易しい」「普通にあること」となります。普通にあることを「当たり前」と言います。「あって当然、してもらって当然、そんなの普通じゃん」…が当たり前です。

ですから「ありがとう」の反対の意味をもつ言葉は、「当たり前」だと言えるのですね。

「ありがとう」と「当たり前」が反対の言葉なんだなあ…と感ずることがあります。それは、人は何かを「してもらって当たり前だ」と考えると、「ありがとう」という感謝の気持ちが出てこない…ということです。皆さんは、してもらって当たり前だと思っていることはありませんか。例えば、次のようなことを当たり前と思っていないですか。

おうちの人に食事を作ってもらうのは当たり前、ご飯を食べられるのは当たり前、自分が食べた食器をおうちの人が洗うのは当たり前、お風呂の掃除をもらうのは当たり前、自分がテレビを見ていて、おうちの人が洗濯物を干しているのは当たり前(おうちの人にありがとうを言うことがありますか?)、友達に手伝ってもらうのは当たり前(友達にありがとうを言うことがありますか?)、先生が教えてくれるのは当たり前、先生が注意してくれるのは当たり前(先生にありがとうを言うことがありますか?)、地域の方が、毎朝、道路に立って子どもの安全を守ってくれるのは当たり前(安全のために立ってくださっている方に挨拶やお礼を言っていますか?)、おうちの人が休みの日に、学校の周りのネットをはったり、下水掃除をしたりするのは当たり前(先週、父親応援団の皆さんがやってくれたのですよ。)・・・こういうことをみんな、当たり前と思っていないですか。これらを当たり前と考えていると、感謝する気持ちは出てこないのです。

コロナウイルス感染症が出てから、世の中の「当たり前」がガラリと変わりました。それまで、普通にできたことができなくなったのです。様々な学校行事が普通どおりにできなくなり、今行っているような全校集会もできなくなりました。こうして、皆さんに話ができることを私はとても「ありがたい」と感じます。地震や豪雨などの災害に遭った人々は、家族と一緒にいることさえ当たり前ではなくなっていました。

身の周りであることを「当たり前じゃない」という見方をして、たくさん感謝ができると、幸せな気持ちが続いていきます。「ありがとう」を今日も言えるといいですね。



2年生かがやき学年



みんながキラキラ「かがやき」 そだてよう 見つけよう



「おいしい野菜を育てたい!」と、お世話や観察をがんばっています。大きく育てるには…、虫や鳥から守るためには…、畑の先生にもアドバイスをもらいながら、キラキラかがやくステキな野菜づくりに奮闘しています。



5年生よつば学年



みとめあい たかめあい まなびあい かかわりあい ~4つの「あい」で幸せの葉を広げよう~

高学年の仲間入りをしたよつば学年。かけはし班や委員会活動に張り切って取り組んでいます。学校田での米作りの活動を通して食の大切さやこれからの農業について深く考えていきます。



自然教室では、自然の中で思い切り活動し、役割を果たすことや協力すること、助け合いの大切さを学びました。

1泊2日の活動で、キャンドルサービスや源流探検など、普段できない体験に子どもたちは大興奮でした。

